

2. 現状や動向を踏まえた主な課題

(1) 町民アンケートの記述回答のキーワードからみえてくる課題

町民アンケートでは、住環境で改善してほしいこととして「道路が狭い」、「歩道整備」など道路整備に関する意見や、「ごみの回収時間が短い」、「ごみ捨て場が遠い」などのごみ捨てに関する意見が多く挙げられていた。

道路整備に関する意見のなかでは、西軽井沢とまちなかを結ぶ道路についての意見がとくに多いほか、住宅が増えることによる自然の減少を危惧する意見や、公共交通機関の充実を望む意見もみられた。

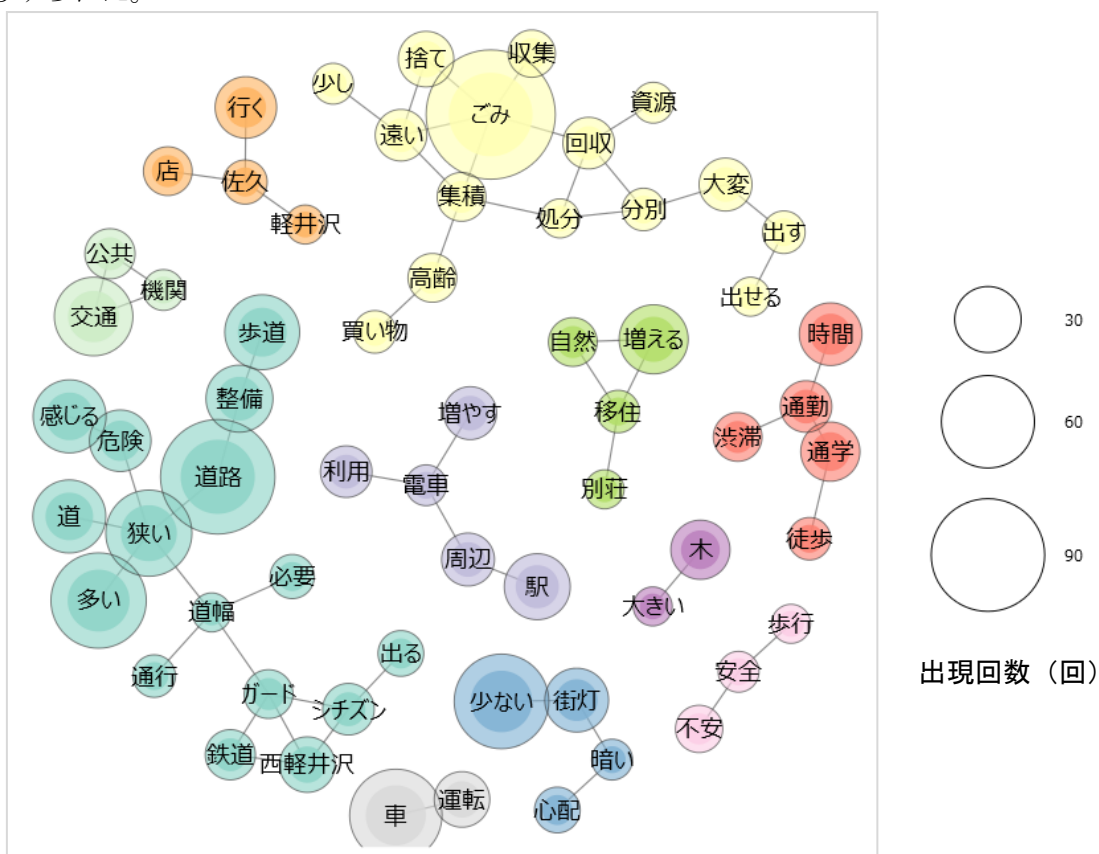


図 住みにくさ、住環境改善してほしいこととして挙げられた頻出語とその共起関係
(n=426、最小出現回数 10 回以上=63)

■住環境の改善に関する意見（町民アンケートの記述回答）

○道路に関すること

- ・町道雪窓向原線（通称：シチズン通り）の高架下が狭く、通勤時間帯に混雑する。
- ・車道、歩道ともに幅員の拡張などの道路整備が必要。
- ・街灯が少なく暗い。

○ごみ捨てに関すること

- ・ごみ捨ての時間が 30 分しかなく不便。
- ・ごみの分別が細かく大変である。
- ・ごみ集積所までが遠い。

○自然に関すること

- ・住宅建設のため、樹木の伐採がされている。自然の豊かさを維持してほしい。

○公共交通に関すること

- ・公共交通機関の選択肢、本数が少ない。

○買い物・店舗に関すること

- ・お店が少ない。（商業施設、飲食店など）

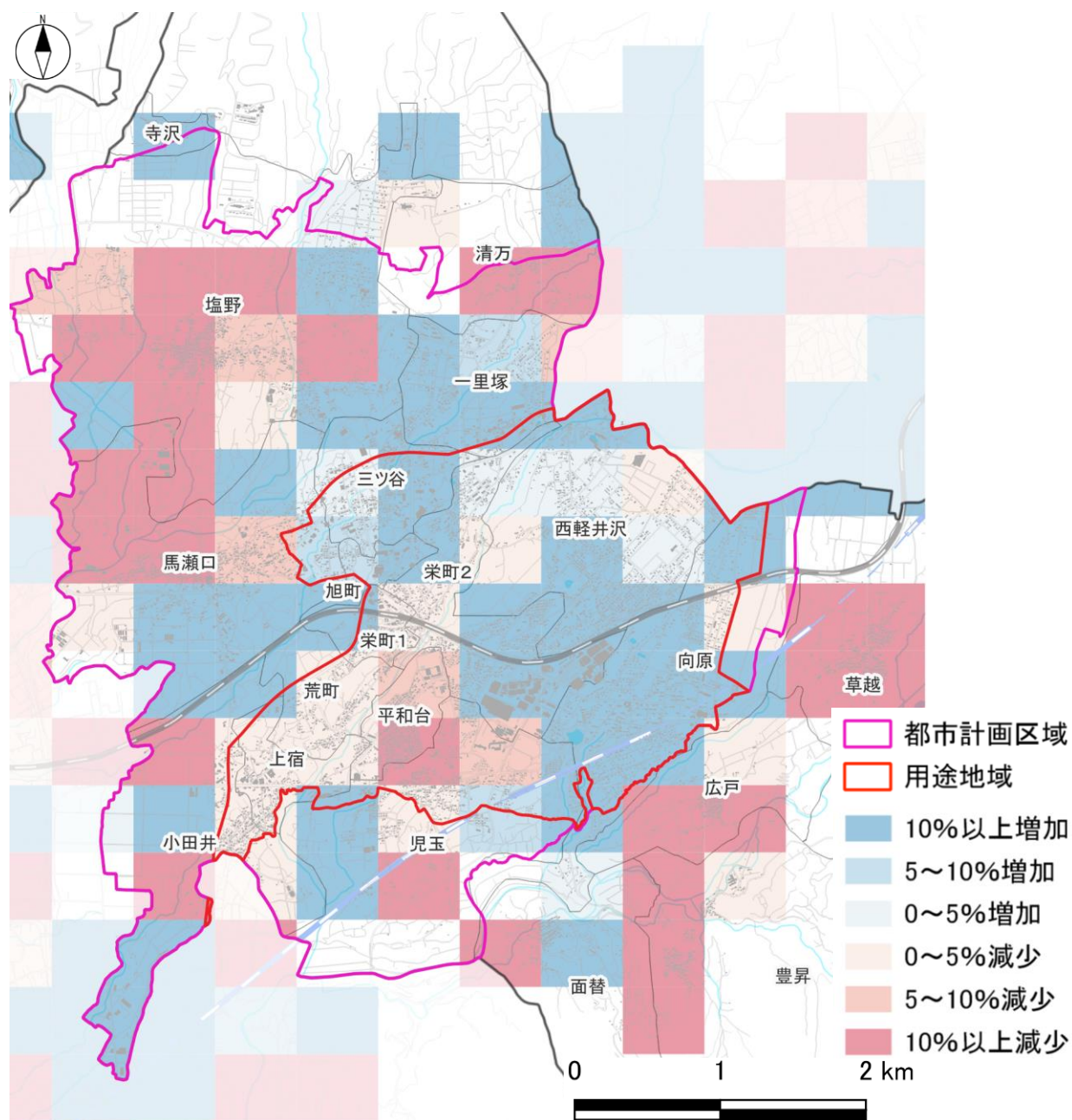
(2) その他データ等による現状把握や動向分析から捉えた課題

① 町全体での適正な人口の受け入れ

・人口増減の地域差

直近の国立社会保障人口問題研究所の推計人口では、隣接する佐久市、小諸市、軽井沢町が減少予測なのに対し、当町は県内でも稀な増加予測となっている。

ただ地理的な人口動態をみると地域差があり、とくに用途地域外では塩野や馬瀬口、草越、広戸など古くからある集落ではとくに人口減少率が高い。また用途地域内であっても平和台などの住宅団地では人口減少率が高くなっている。



出典：2010年、2020年国勢調査

図 過去10年間（2010年－2020年）の人口増減率（推計）

表 御代田町及び隣接自治体の将来推計人口（2015年－2045年）

| | 2015年 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 |
|------------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 御代田町 (住民基本台帳) | 15,543 | 15,887 | 16,363 | 16,839 | 17,315 | 17,791 | 18,267 |
| 御代田町 | 15,184 | 15,555 | 15,567 | 15,606 | 15,563▲ | 15,381▲ | 15,094▲ |
| 佐久市 | 99,368 | 98,199▲ | 95,542▲ | 93,173▲ | 90,540▲ | 87,538▲ | 84,090▲ |
| 小諸市 | 42,512 | 40,991▲ | 38,986▲ | 36,987▲ | 34,881▲ | 32,624▲ | 30,326▲ |
| 軽井沢町 | 18,994 | 19,188 | 18,403▲ | 17,975▲ | 17,484▲ | 16,903▲ | 16,286▲ |

出典：国立社会保障・人口問題研究所
御代田町住民基本台帳

※2015年、2020年は国勢調査による実績値、2025年以降は推計値（▲：5年前比で減）
※最上段の2015年、2020年は御代田町住民基本台帳の実績値、2025年以降は、
住民基本台帳の実績値からの推計値

・新築住宅件数の地域差

近年に新築建物の件数をみると、住宅に関しては人口動態と連動するかたちで地域差があり、西軽井沢と向原はその件数が顕著に多い。

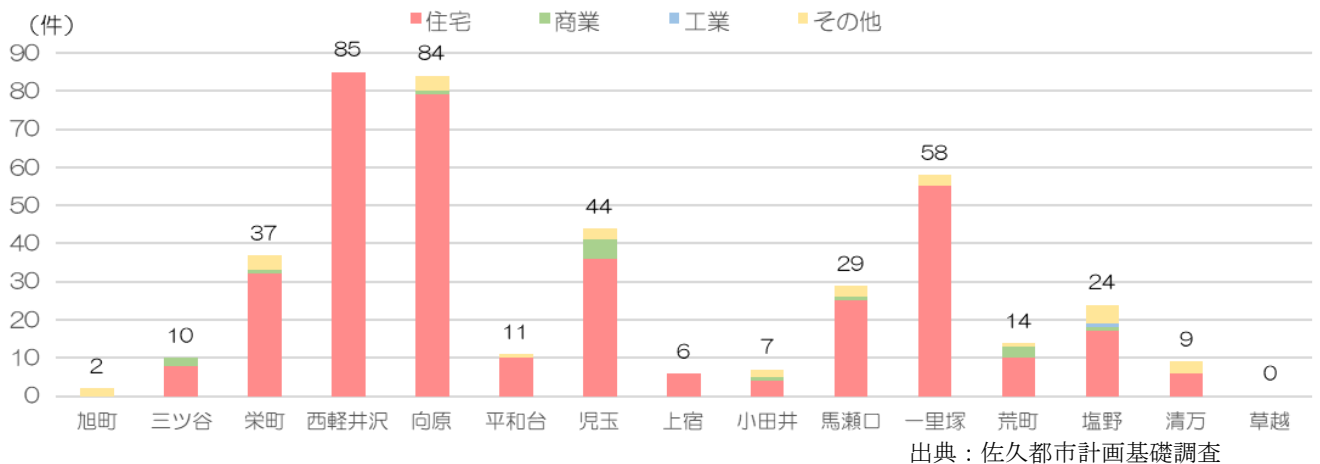


図 新築建物の地区別件数（2016年－2020年）

・人口の受け入れに対する考え

町民アンケートでは、移住者の受け入れには積極的だが、自然環境や地域コミュニティとの調和の必要性を感じている人が多いことがうかがえる。豊かな自然を魅力と感じている町民が多いなかで、とくに新築住宅の件数の多い西軽井沢や向原などでは自然の減少を危惧する声も聞かれる。また古くある集落にも一定の人口流入があるなかでは、移住者がうまく既存のコミュニティに入れるようにしていく必要もある。

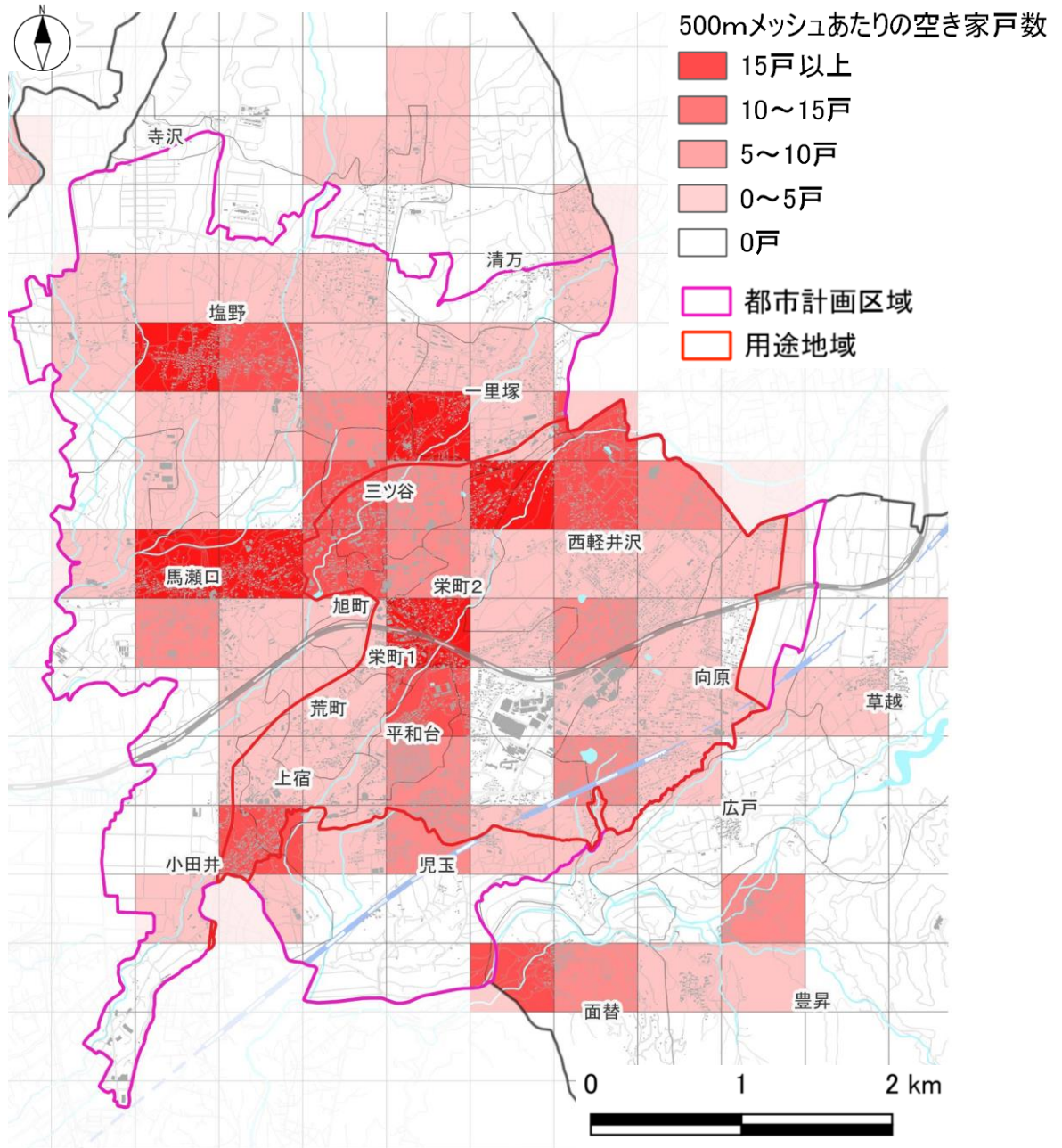
| 項目 | 回答率 (%) |
|-----------------------------------|---------|
| 受け入れは進めるべきだが、自然環境や地域コミュニティとの調和は必要 | 63.3 |
| 積極的に受け入れていくべき | 20.7 |
| わからない | 9.1 |
| あまり積極的に受け入れていくべきではない | 4.1 |

図 移住者の受け入れに対しての考え（n=738）

② 低未利用地の適切な管理と有効活用

まちの中心部にも空き家が存在しており、駅前やその周辺部には空き店舗や空き地などの低未利用な空間も多い。千年村の集落内には維持管理が行き届かず老朽化の進んだ空き家も目立つ状況にある。

また旧街道沿いの住宅は、外観は比較的良好に保たれているものの、集落内には空き家も散見される。町民アンケートでも空き家などが放置されていることに対し、不安を感じているとの声や活用を望む声もある。



出典：平成28年度空き家実態調査

図 500mメッシュあたりの空き家の戸数



まちなかの低未利用地



著しく老朽化が進み空き家化している住宅

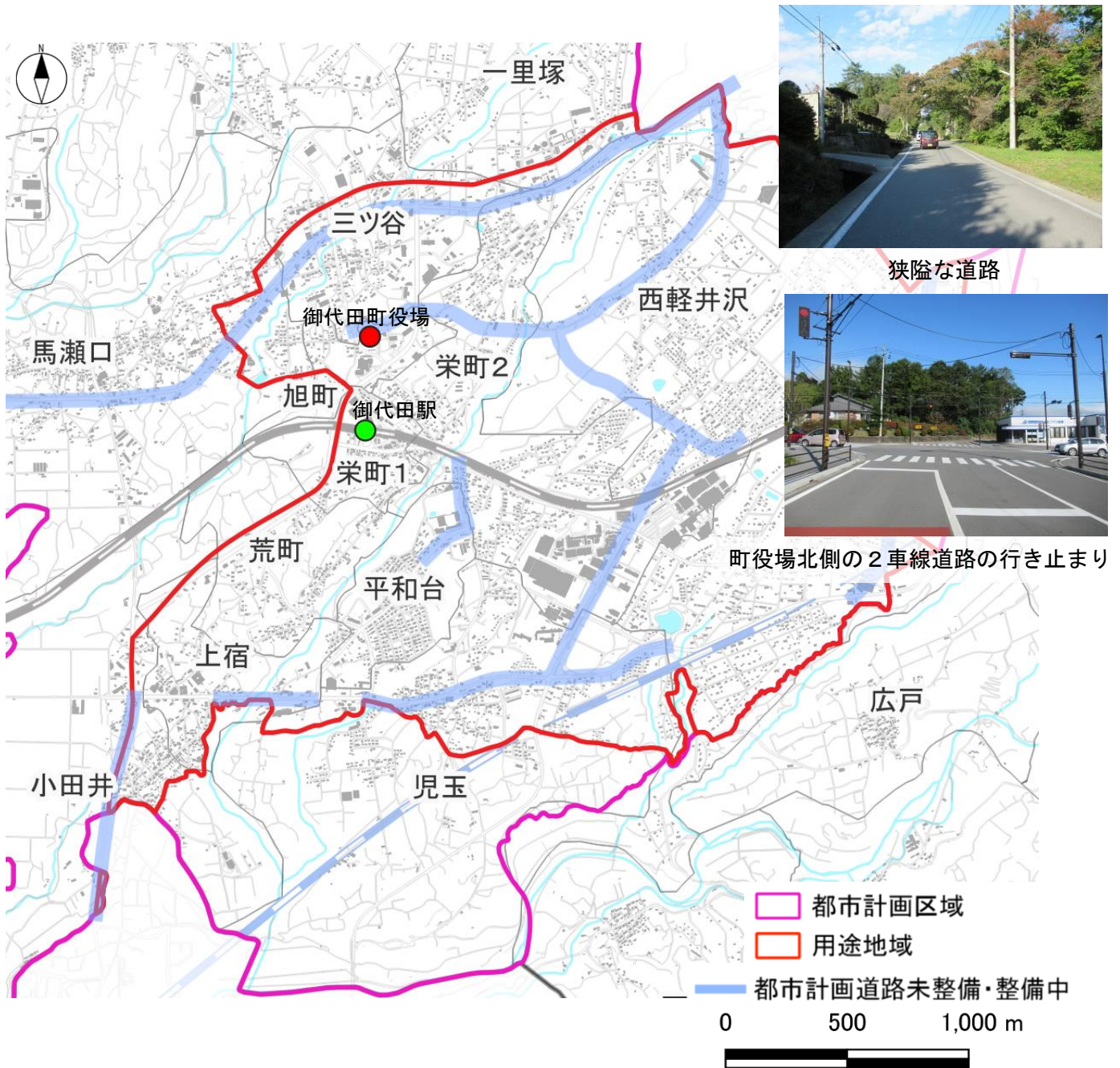
■空き家や空き店舗、低未利用地に関する意見（町民アンケートの記述回答）

- ・ 隣近所に空き家が多く安全面などに不安がある。倒壊しそうな廃屋、草木や竹が伸びている。
- ・ 廃墟に近い空き家が散見され、衛生面、治安面で不安。
- ・ 空き家の紹介を移住者にしてほしい。
- ・ 空き家をリノベーションするなどして活用する。
- ・ 空き家を撤去し、空いた土地を再利用する。
- ・ 未利用地、空き家、空き店舗が解消され、買い物や飲食が楽しめるまちになってほしい。

③ まちなかの都市基盤の強化と既存ストックの多面的活用

・まちなかと西軽井沢間の円滑な動線確保

人口の多い西軽井沢方面とまちなかの中心部を円滑につなぐ動線が未整備であり、災害時の動線の確保が必要である。町民アンケートでも西軽井沢とまちなかをつなぐ道路の整備を望む意見は多い。



出典：H26年度 町単独 東原西軽井沢線 概略設計業務

図 主な都市施設（道路・公園）の整備状況

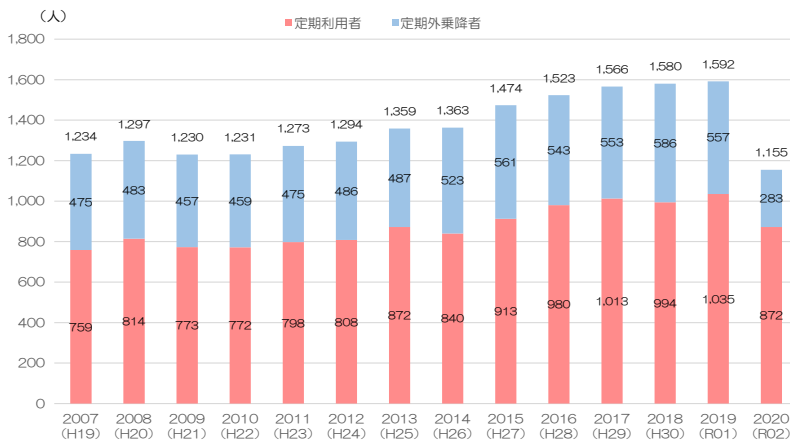
・公共交通の充実と駅周辺の活性化

町民アンケートの結果から現在車利用が多いが、将来的な移動手段に不安を抱えている人は多く、公共交通の充実が望まれる。

また地域公共交通の拠点となる駅は、近年利用者が増加傾向であるものの、町民の半数以上はここ何年も利用していない状況にあり、周辺部も含め、交流の場としての活用やまちの顔として改善を図る余地がある。

| 項目 | 回答率 (%) |
|----------------------------------|---------|
| 多少なりとも不安はある | 87.2 |
| 鉄道やバス、タクシーなどの公共交通があるので、不安はほとんどない | 3.4 |
| マイカーで手助けしてくれる家族などがいるので、不安はほとんどない | 2.8 |

図 将来的な（自ら運転できなくなったときなど）外出先への移動への不安 (n=738)



北側からは直接改札口にアプローチできない御代田駅

出典：佐久都市計画基礎調査

図 御代田駅利用者数の推移 (2007年-2020年)

| 項目 | 回答率 (%) |
|--------------|---------|
| 週に3回以上 | 2.0 |
| 週に1、2回 | 0.5 |
| 月に1~数回 | 5.6 |
| 年に1~数回 | 36.3 |
| ここ何年も利用していない | 54.5 |

図 電車（しなの鉄道）の利用頻度 (n=738) ※御代田駅で乗降

| 項目 | 回答率 (%) |
|----------------------------------|---------|
| 魅力は感じているが、改善の余地はある | 46.6 |
| 魅力は感じていないが、魅力的な場であってほしい（改善の余地あり） | 35.6 |
| いまのままでも問題ない | 7.2 |
| 十分に魅力を感じている（現状のままでよい） | 4.3 |

図 現状のまちなかの魅力や改善の必要性 (n=738)

・既存公園の利活用

まちなかや暮らしの場の近くに複数ある規模の大きな公園は、まちの魅力を高める空間として大きなポテンシャルを秘めている。町民アンケートの結果では、半数近くが「ほとんど・全く利用していない」と回答しており、有効活用が望まれる。

| 項目 | 回答率 (%) |
|----------------|---------|
| 週に3回以上 | 3.9 |
| 週に1、2回 | 6.1 |
| 月に1~数回 | 20.7 |
| 年に1~数回 | 22.8 |
| ほとんど・全く利用していない | 46.5 |

図 公園の利用頻度 (n=738)

3. まちづくりの目標と方針

(1) まちづくりの目標

まちの成り立ちや特性を踏まえるなかで、御代田町は町全体として、究極的に住みやすく、居住者に選ばれるまちを目指していく。

比較的コンパクトな範囲に展開する多彩な居住環境の魅力を活かし、磨き、各地域に根差した生活文化の継承と新たなライフスタイルの創出を図る。

究極的に住みやすい・居住者に選ばれるまち

(2) まちづくりの基本方針

「究極的に住みやすい・居住者に選ばれるまち」として、他自治体との差別化を図り、町全体で魅力ある居住環境の継承と創出を図っていくため、今後のまちづくりにおいてとくに大事にしたい方針を以下に定める。

方針1 グリーン・ベイストなまちづくり

浅間山麓の地形や地質、水系、植生など自然基盤の機能や魅力を引き出すことにより、自然環境や公園などのみどりの力を最大限に活かす。

方針2 コミュニティ・ベイストなまちづくり

地域内外の人々をつなぐ場やしくみをつくり、文化や産業の創出と継承を図ることにより、地域内外の人々のまちへの主体的な関わりと多彩な交流を生み出す。

方針3 セイフティ・ベイストなまちづくり

グリーン・ベイストやコミュニティ・ベイストなまちづくりのもとに、ハード・ソフトの両面から生活上必要な安全性や利便性の確保を図ることにより、暮らし全体でいざというときのリスクを低減し、居住者の安全・安心をもたらす。



暮らしの場全体で、いざというときのリスクを低減し、居住者の安全・安心をもたらす
※「～ベイストな」とは「～を重視した」と「～を大事にした」という意味で用いている。

(3) 居住タイプごとの方針

比較的コンパクトな範囲に展開する多彩な居住環境を大きく5つのタイプに分類し、それぞれのまちづくりの方針を以下に定める。

タイプ1 農村集落

主な該当地区：塩野、清万、一里塚、草越、広戸、豊昇、面替、小田井
農業や農地との調和を重視し、自然の地形を活かした立地のなかで、建物の形態的な配慮や敷地周りの緑の保全を図りながら、地域に根ざした文化やコミュニティの継承していく。



タイプ2 旧街道沿い

主な該当地区：馬瀬口、三ツ谷、上宿、小田井
北国街道や中山道の街道沿いに連なる集落で、本陣や問屋など、古き時代の建物や史跡を大切にしながら、街道沿いの風情ある景観を守り、活かしていく。



タイプ3 まちなか

主な該当地区：旭町、栄町1・2、三ツ谷、荒町、上宿、兎玉
駅や役場、商業施設など都市機能が集積する利便性を活かし、地域内外の多様な世代の人々が集い、交流を深め、にぎわいや居心地のよさを感じられる住環境の創出を図る。



タイプ4 住宅団地

主な該当地区：平和台、西軽井沢、向原
区画整理された土地に計画的に又は整然と立ち並ぶ住宅地で、居住に特化した環境を活かし、敷地周りの緑やコミュニティの魅力で持続可能な住環境として維持継承を図る。



タイプ5 森林住宅地

主な該当地区：寺沢、清万、西軽井沢、向原
森林内にある住宅地で、自然環境の保全を重視し、鳥のさえずりや樹木の香りなど、自然の営みや移ろいを感じながら、自然との共生を楽しむ暮らしを大切にしていく。



いずれの居住タイプにおいてもいまある魅力の継承と創出が必要



3つの方針に基づく取組項目と居住タイプごとに重視すべき項目を整理

《方針1》

グリーン・ベイストなまちづくりの取組

～浅間山麓の地形や地質、水系、植生など自然基盤の機能や魅力を引き出す～

| 取組項目 | タイプ1 農村集落 | タイプ2 街道沿い | タイプ3 まちなか | タイプ4 住宅団地 | タイプ5 森林住宅 |
|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 良好な眺望景観の保全・創出 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| ② 農地や農村景観との調和と保全 | ◎ | ○ | | | |
| ③ 既存の集落・宅地内の緑の維持・継承 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| ④ 歩きたくなるみちづくり | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| ⑤ 歴史的な風情・情緒の保全・継承 | | ◎ | ○ | | |
| ⑥ 公共空間の緑化と維持管理のしくみづくり | ○ | ◎ | ◎ | ○ | |
| ⑦ 民有地の緑の空間確保と地域にあった植栽 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ⑧ 既存のオープンスペースの魅力化 | | | ◎ | ◎ | |
| ⑨ 緑道や広場のある住宅地の整備 | | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| ⑩ グリーンインフラの導入・地域材の活用 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| ⑪ 樹林や森林景観との調和と保全 | ○ | ○ | ○ | | ◎ |

◎：とくに重視 ○：重視



←十分なセットバックにより緑化のスペースを確保して、敷地周りの緑化の推進と緑の保全を図る。

徒歩や自転車でゆっくりと歩ける道をつなぎ、地域の自然や景観を楽しみながら歩けるウォーカブルな道でまちをつなぐ。



←建築や土木構造物に、浅間石など地域の材を積極的に取り入れ、周囲の景観と馴染ませ、地域の魅力向上につなげる。



《方針2》

コミュニティ・ベースなまちづくりの取組

～地域内外の人々をつなぐ場やしきをつくり、文化や産業の創出と継承を図る～

| 取組項目 | タイプ1 農村集落 | タイプ2 街道沿い | タイプ3 まちなか | タイプ4 住宅団地 | タイプ5 森林住宅 |
|---------------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 農村の生活文化や半農半Xな暮らしに共感する 地域外住民の受け入れ | ◎ | ○ | | | |
| ② 空き家や古民家を活用した居心地のよい場づくり | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| ③ 回遊動線上のコミュニティ空間の確保・活用 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ④ 地域の魅力を満喫できるしくみづくり | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| ⑤ 出会いと交流の場づくり | ○ | ○ | ◎ | ○ | |
| ⑥ 地域内外の多様な人々が集う場やしかけ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| ⑦ コミュニティの場としての公園空間の利活用 | | | ◎ | ○ | |
| ⑧ 多様な年齢層の居住者の共存 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| ⑨ 住民同士が程よい距離感を保てる暮らし方の継承 | | | | | ◎ |
| ⑩ 移住者や地域外の人々が 町や地域と関わりをもてるしくみづくり | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

◎ : とくに重視 ○ : 重視



←まちの顔として、駅周辺に人々が集い、地域内外、様々な世代間の交流が育まれる場所をつくる。

地域住民と来訪者が交流のできる場をつくり、地域の魅力を地域住民が来訪者に語り、来訪者から地域住民が気づきを与えられる機会の創出を図る。



←様々な人々が集い、交流を深められるコミュニティの核として、公園空間を最大限に活かしていく。



《方針3》

セイフティ・ベイストなまちづくりの取組

～グリーン・ベイストやコミュニティ・ベイストなまちづくりのもとに
ハード・ソフトの両面から生活上必要な安全性や利便性の確保を図る～

| 取組項目 | タイプ1 農村集落 | タイプ2 街道沿い | タイプ3 まちなか | タイプ4 住宅団地 | タイプ5 森林住宅 |
|---------------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 災害リスクの高いエリアへの 新たな住宅立地の回避 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| ② まちの中心部への円滑な動線の確保 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| ③ 若者や高齢者が使いやすい移動手段の確保・ 公共交通のしくみづくり | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ④ 買い物など日常生活の安心確保 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| ⑤ 火砕流など火山災害発生時の逃げ道の確保 | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ⑥ 歩行者に優しいみちづくり | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| ⑦ 高齢者の居場所づくり | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| ⑧ 野生生物との共存・共生 | ○ | | | | ◎ |

◎ : とくに重視 ○ : 重視



←災害時に逃げ道となる動線の安全性や円滑性を確保し、いざというときの安全と日常の暮らしの安心を確保する。

高齢者の寄り合いの場や居場所を確保し、高齢なってもいきがいをもち安心して暮らすことのできる環境を確保していく。



←歩道の幅員や段差の解消などのハード整備や地域公共交通のしくみづくりなどを通じて、車がなくても移動の安全性や利便性を享受できる住環境をつくる。

